

学園だより

Vol.93

2013.3
Nara Women's
University



大学構内の桜満開(奈良女子大学メールマガジンより)

現在・過去・未来をつなぐ	1
今いるところで、今あるものを使って、 最善を尽くす	野口 誠之
日々の雑感	久米 健次
出会い、そして感謝	富崎 松代
明日を支える人たちへ	鍛治 幹雄
奈良時代	井上 裕正
さようなら、ナラジョ	奥村 悦三
奈良女子大学での 二十四年余りを振り返って	塚原 敬一
女性のタフネスと 思考能力と生物科学	鈴木 孝仁
奈良女子大学で過ごした四十五年	前川 昌子
寄稿 私のチャレンジ	10
翁 みほり・橋爪 恵・本郷翔子	
卒業生からの寄稿	12
奈良という地で学び、奈良で働く	御池友里子
やりたい仕事に就く事と 仕事を続けるという事	上村 麻実
Just believe yourself	北須賀理沙
就職内定状況について	14
課外活動サークル紹介	16
相馬秀廣先生について	18
学生生活支援	19
第19回外国人留学生による 日本語スピーチ大会及び学長主催留学生懇親会 平成24年度佐保会奨学金授与式 「廣岡奨学金」について 日本学生支援機構奨学金について 学生相談室から	

今いるところで、 今あるものを使って、 最善を尽くす

野口 誠之

奈良女子大学第十代学長
専門分野／高エネルギー物理学



SEISHI
NOGUCHI

「今度、奈良女子大学で高エネルギー物理学の研究室を立ち上げることに、助手を募集しているが、君、どうかね?」「はい、応募します」。一九七四年末、博士論文の仕上げに勤んでいる頃の指導教授との会話です。その頃すでに、博士課程を修了しても定職がない「博士浪人」が社会問題になっていましたので、否応なく即答しました。運良く採用されることになりました。

本物理学部物理学科の助手として、一九七五年四月一日に着任しました。大学院時代を過ごした研究室は大変豊かでしたので、本学に着任して、その落差に驚きました。使える予算は少なく、全学共同利用の電子計算機は大学院時代のそれから見れば骨董品かと思われるほど旧く、遅く、小さなものでした。しかし、そういう研究環境にもかかわらず、奈良という土地柄と、本学が持っていた独特の雰囲気の中で、明るく意欲的な学生たちと共に研究を行うことの喜びから「よし、自分はこちら、思い切り研究と教育に励もう」という意欲が湧いてきたことを、つい先日のおもいに思い出さなければなりません。

を目的としています。そのためには、非常に高いエネルギーの素粒子を標的物質に衝突させ、その反応を詳しく解析する必要があります。高エネルギー物理学とも呼ばれます。共同研究が前提の巨大科学の代表例です。当時の我が国の高エネルギー物理学分野は「女なんか!」という差別発言が随所にあつた典型的な男社会でした。そういう中で研究室を立ち上げた本学グループは、実績を上げていくことで存在意義を高めることを目指し、意欲的に研究に取り組んできました。最初の頃は素粒子の飛跡が写っている泡箱写真を本学において解析する方法からスタートし、一九七八年には高額の自動解析装置の予算がつき、研究に弾みがつきました。次に、大型粒子加速器がある高エネルギー物理学研究所(通称KEK)に学生達と出向き実験を行うようになりました。「KEKに見学に行く時代」「KEKで実験を行う時代」「KEKに卒業生が就職する時代」を経て、本学高エネルギー物理学研究室は、女性の進出していかなかったこの分野で、確固たる位置を占めるようになりました。男女共同参画社会を目指す女子大学としての役割のひとつを果たしてきたと思います。

学を会場に研究チーム結成会議を行った国際共同実験(愛称RISの実験)では、その成果が決定的な証明となり、二〇〇八年の小林・益川先生のノーベル物理学賞受賞につながったことは非常に嬉しい出来事でした。

二〇〇九年に第十代学長に就任し、教育研究の現場からは遠ざかり、大学運営に忙殺されましたが、「大変さを楽しもう」と自分を励まし、何とか任期を終えることができました。そういう意味では、教育・研究・管理運営のすべてにわたって、楽しい日々を過ごすことができたと思っています。

最後に、若い皆さんには、「今いるところで、今あるものを使って、最善を尽くす。それが未来への基盤となる」という私の座右の銘を贈り、三十八年間在職した思い出深い奈良女子大学に感謝しつつ、別れのご挨拶といたします。

長い研究歴の中で、一九九四年に本



日々の雑感

久米 健次

全学共通(学長特命担当)教授
専門分野/原子核理論、量子物理、情報統計科学



KENJI
KUMIE

たいていの人にとって、自らの進路の大筋の方向を決めるのは高校から大学に進学するときだろう。私の場合、大学進学時に物理学の物理に進もうと考えたのはどんな動機だったのか。はっきりとした強い動機があったかどうか怪しいものではあるが、中高時代に入門書の類を読んで、相対論とか量子論のヘンテコな物理の世界に驚いたのが背景にあったのかな、などと今になってこじつけて考えたりもする。私は「あたり前のことがあたり前に起こる」とことにはあまり関心がなく、「アッと驚く」とか「そんなバカな」、「そんなこと起こるはずがない、出来るはずがない」といった類のことにとりわけ惹かれるタチである。大発見ではなくてもちょっとした意表を突くアイデアなどにも感心してしまうのである。量子論で局所性が破れたり、iPS細胞で細胞の初期化が出来たりという世紀の発見や発明にも驚くけれど、車の駆動輪の左右の回転数を調節している差動ギアや、温度差を利用したおもちゃの水飲み鳥のアイデアなど、よく考えたものだと、いたく感心してしまうのである。この世の中、森羅万象、至る所にそんな驚きのタネは潜んでいるし、それらに対する先人の莫大なアイデアや知的営為の蓄積には圧倒される。

何に驚きを感じるか、何に興味を持つかは人それぞれだろう。自然科学や数学でも、それは理屈や論理ではなく、きっかけは感性の問題ではないだろうか。指をケガした時に自然に治るのが「あたりまえ」と思うとそこからの発展はない。「何故そんなことになるのか、生物以外では自然治癒なんかはないの」と思うと未知の世界が見えてくる。身の回りの草一本、石ころにでも壮大な宇宙が宿っている。どんな分野でも、そういった意味での感性が物事の始まりとして特に大切ではないだろうか。

感性でスタートし、その後論理がついてくる。小中高から大学での教育の中で、知識の詰め込みに忙しく、そんな感性や驚きが大切にされていないのではないかと、我身も振り返りつつ反省するのである。驚きや感懐がないと論理は生気の無いものになってしまうだろう。教育問題が喧(かまびす)しい昨今、干からびた知識ではない瑞々(みずみず)しい感覚を呼覚(よびさ)ませないといけないだろうと思う。学生の皆さんも日々の勉学に限らず、あらゆる場面でいろんな感性を研ぐことが必要なのではないか、などとちよっと説教臭いことを言いたくなったりする。勉強を進める一番の早道は、その分野に驚きと衝撃を受けて好きになる事だ

と思う。そうすれば、ほっておいても自分で勉強するでしょうから。量子論創設の大立者(おおだてもの)ボーアの言葉に「量子論に衝撃を受けない者は、未だ量子論を理解していないのだ」というのがある。論理に生命を吹き込むのは驚きや感懐などの感性であり、それらが物事を突き動かす駆動力ではないだろうか。

さて、私、今春で定年となりました。長らくお世話になった関係の皆様方に心よりお礼を申し上げます。とりわけ着実にまじめな沢山の学生・院生の方々とともに過ごせたことは他には替え難いものでした。定年は終わりではなく、新たな始まりにしたいと思います。小生時代の「夢中に遊んで、ハツと気がつく」と曰(い)われ」を理想形とし、個人の単なる遊びに止まらず、より有意義なものに熱中して夢中に過ごす日々を再現したいと願っています。ではまたお会いする時まで、お元気で、ご機嫌よう。

出会い、そして感謝

富崎 松代

理事(企画・研究担当)・副学長
 附属図書館長
 男女共同参画推進機構長
 理学部 教授 数学科 現象解析学講座



MATSUYO
TOMISAKI

平成元年四月に着任してから今日まで、途中四年半他大学での勤務もありましたが、十九年と半年、奈良女子大学で教育と研究に携わってきました。三十八年間の大学教員生活のほぼ半分の間を本学で過ごしました。

前任校から着任し、新学期が始まる頃、講義室から聞こえてくる甲高い話し声や笑い声に、本当に驚きました。それは、学生達のたくましさや粘り強さに対する別の驚きへと変化していききました。学生控え室で遅くまでゼミの準備をしたり、卒業研究で勉強した内容をノートに仕上げたりと、熱心に取り組む姿勢には、こちらが何度も励まされました。今でも、本学学生の特徴は「たくましさ、強さ」だと思っています。

年齢を重ねると管理運営に関わらざるを得ないということは覚悟しておりましたが、それでも、教育研究の現場にもう少し関わりながら、教員生活を終えたいと思っていました。幸いにも、卒業研究、博士前期課程の指導や、オムニバスの講義担当がありましたので、私なりに最終年度のシナリオを描きました。その中で、数学の歩き方(五月二十八日)と数学の展開(六月二十七日)での講義を最終講義と決めて臨みました。講義のタイトルはどちらも「πは無理数である」です。前者は一回生対象、

後者は三・四回生対象ですから、講義のタイトルは同じでも内容は異なります。受講学生の基礎知識に合わせて準備を行いました。行ったつもりでした。しかし、一回生には難しかったようです。万全の準備をしたつもりであっても、講義というのはいつになっても難しいとあらためて感じました。

私は高校の数学教師を目指して大学に入学しました。しかし、卒業の年に教員採用試験に合格したものの、実際には高校の教壇にたつことは叶いませんでした。一方で、もっと勉強を続けたいという気持ちが強くなっていましたので、大学院へ進学しました。そこで出会ったテーマ「拡散過程」が、その後の私の研究の基盤になりました。

多くの研究者と出会い、議論し、幾つかの成果にたどり着きました。そして交流の中から更に新しい研究課題に出会いました。未だに着手していない課題もあります。これからはゆっくりと時間をかけてこれらの課題に取り組みたいと思っています。

さきに管理運営と書きましたが、平成十七年十一月から、久米前学長のもとで、男女共同参画推進活動に携わり、二十一年四月からは、野口学長のもとで附属図書館長、二十三年四月からは理事(企画・研究担当)・副学長として

の仕事にも携わりました。大変貴重な経験をさせていただいたことに深く感謝しております。未知のことばかりですから勉強が必要なのは言うまでもありませんが、勉強が追いつかないことも多々ありました。そのような時、多くの方々に助けていただきました。私が気づかないところでフォローしてくださり、あの時そうであったかと思ってしまうことがしばしばありました。そのときに感謝の気持ちをお伝えすることができずに申し訳なく思っています。この場を借りて御礼を申し上げます。

本当に多くの人に会えることができず、人あってこそ、と実感しています。このような素晴らしい出会いと経験をさせていただいた奈良女子大学に感謝しつつ、退職の挨拶とさせていただきます。



明日を支える人たちへ

鍛冶 幹雄

全学共通（社会連携科目）教授
専門分野／応用数学 情報工学



MIKIO
KAJI

財関係の企業で三十年余勤め、奈良女子大学にお世話になりあつたという間に八年が過ぎ去つた。私が社会人となつたころは日本経済の成長期で、就職に際しても特に深い考えもなく、周囲の流れに押されて会社に入ったという感じであつた。ただ、理学部・数学の出身ではあつたが、「ものづくり」に興味があり、それに関連したメーカーで汗を流したいという気持ちを持っており、「数学を使って工学分野で不可能と思われていたことを可能にしたい」と漠然と考えていた記憶がある。就職した企業も、理学部・数学の出身者の採用実績はなく、異端の人材も入れてみようというのが人事の考えであつたようである。いざ入社してみると理学部と工学部の出自の差は大きく、技術用語がわからないなど、さんざん苦労をしたが、幸いにも上下左右の周囲の人たちにも恵まれ、その人たちと協力をし、流れに乗って仕事をしていくことで、なんとかやっていくことができたと思つた。また、先に述べた初心の実現のため、多くの大学の先生方とのお付き合いを深め、それが最後には大学にお世話に

なることにつながつた。こうして、「人間は一人でできることには限りがあり、周囲から生かされて育てられる」ことを身をもって体験できたことが大きな宝物だと思つている。このため、企業においても若い人を日々育て教育することの大切さを周囲に訴えて実践してきたつもりであるが、縁あつて大学に来て実際に多くの学生と接してみても、改めて増々教育の大切さを痛感している。

さて、ひるがえつて今の時代の周囲の学生ひいては日本の若い人たちを見ていると、日本経済の低迷、政治の混乱、さらには高齢化、少子化など暗い話が多く、将来に不安があり少し元気がないように見える。たとえば、少子化といえは日本の人口は百年後には現在の約半分の六千七百万人位になるといふ。それでもこの数字は明治維新のころのほぼ倍だそうである。明治維新の時は、日本の人々、特に若者は元氣であつた。数が問題ではない。微分係数が、正か負かの違いである。現在の日本の国力の推移の微分係数は負ではあるうが、それでも確実に蓄積されるものがある。正値の累積積分値である。その代表的

なもの人類の歴史、知恵、科学技術など広い意味での文化のストックである。この文化を作り出し、それを継承し蓄積していくのは大学の大きな役割であり、その役割の大きな部分になうのが、学生であり、若い人たちである。幸いなことに日本、そして大学には、先人たちが累々と重ねてきた文化の蓄積がある。明日を支える人たちには、この資産の上に浅薄でない本物のストックを加えていってほしい。バブル時代のように浮かれた時とはちがいが、あれもこれもと手を出すのではなく、今はむしろ自身の信ずる本物を真剣に考え集中してそれに全力を投入できる時代であり、それはチャンスかもしれないのである。たとえば、長期的視野を持ち、信念を持ち、ポピュリズムに陥らず、相手を思いやって助け合い力を合わせ、事にあたつていけば、必ずや明るい将来が広がつていくように思ふ。

私は、今春で定年となりました。お世話になりました皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、学生や若い人たちの明日が希望に満ちたものになることを祈つて筆をおくことにします。

奈良時代

井上裕正

文学部 教授
人文社会学科 歴史学コースHIROMASA
INOUE

横浜生まれのわたしにとって、奈良を含む関西は必ずしも身近な場所ではなかった。修学旅行先も小学校は箱根、高校（中高一貫校）は北海道と、奈良・京都とは縁がなかった。そんな「東夷（あずまへびす）」のわたしが、どうしたことか京都の大学に進学した。横浜弁で「なになにジャン」とか言つわたしは、「おまえの言葉はおかしい」と言われつづけ、先輩から京都弁の特訓を受けたこともある。わたしは次第に「ジャン」とは言わなくなつていった。

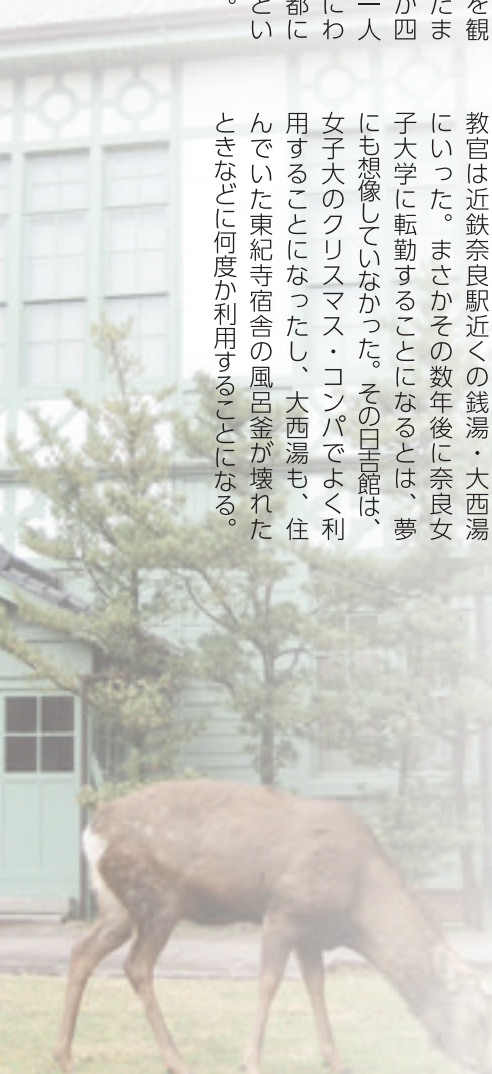
そんなこんなで京都に十一年住んだが、その間、二度、奈良を訪ねたことがある。最初はたしか大学の一回生のころだったと思うが、山科の下宿で一緒だった愛媛県松山市出身の友人Sと秋篠寺へ行った。どういう経緯で秋篠寺へ行くことになったのか、まったく覚えていないが、おそらく秋篠寺の伎芸天を觀にいったのだと思う。そこでたまたまA県立芸大の女子学生二人（たしか四回生）と出会ったが、そのうちの一人が仏像に大変詳しく、彼女の解説にわれわれは圧倒されてしまった。京都に帰るわれわれは、奈良の南に行くという彼女たちと大和西大寺駅で別れた。

二度目の奈良行きは、大学院生のころだったと思う。大学に入学して以来、今は亡き実家の母がときどき京都の下宿にやって来たが、京都の目ぼしい観光スポットもほぼ観たから、少し足を伸ばしてということと、天橋立などに行ったりもしていたが、ある年に奈良へといことになった。今はもうないが、当時は近鉄奈良駅の上にあったホテルに宿泊し、初日は興福寺、東大寺、春日大社など、翌日は法隆寺などを觀て京都に戻った。

三度目は三十代になってから、当時、島根大学に勤めて松江で暮らしていたわたしは、歴史学専攻の研修旅行で学生を引率する教官のひとりとして奈良を訪ねた。その際、有名な（今はないが）日吉館に宿泊したが、宿の風呂は学生たちが使うので一杯だったから、引率教官は近鉄奈良駅近くの銭湯・大西湯にいった。まさかその数年後に奈良女子大学に転勤することになるとは、夢にも想像していなかった。その日吉館は、女子大のクリスマス・コンパでよく利用することになったし、大西湯も、住んでいた東紀寺宿舎の風呂釜が壊れたときなどに何度か利用することになる。

こうして昭和五十九（一九八四）年四月に、島根大学から奈良女子大学に転勤した。それまで公務員宿舎に住んでいたこともあって、前述した東紀寺町一丁目の公務員宿舎に入居した。この宿舎はその後国立大学法人化に伴って大学の宿舎となる。東紀寺宿舎の北隣は附属中等教育学校（当時は附属中学校・高等学校）で、近所には奈良教育大学もある。二十九年近く住んだこの宿舎を昨年八月末に退居した。

さて、わたしの専門である歴史学に「時代区分」というものがある。そこで、わたしのこれまでの人生を時代区分してみると、横浜時代（十八年）↓京都時代（十一年）↓松江時代（六年）↓奈良時代（二十九年）となる。なお、この三月末で退職するが、奈良時代はもうしばらく続くことになる。



さようなら、ナラジヨ

奥村悦三

文学部 教授
言語文化学科 日本アジア言語文化学コース



ETSUZO
OKUMURA

「さようなら」は悲しいことばだと嫌う人もいるかもしれませんが、それは、寂しさを感じさせはするけれども、美しいことばでもあると、わたしは思います。ナラジヨを去る今、皆様に「さようなら」を告げるのは、わたしには、つらいことではなくて、うれしいことです。

理由は二つありますが、その第一は、皆様とお別れが、時満ちてのものであることです。

平成四年四月に着任いたしましたので、結局二十年も奈良女子大学に勤めさせていただいたことになりました。

着任に際して、当時の文学部長、武久義久先生に学部長室で辞令を戴いたあと、しばしお話をさせていただいたのですが、先生が、まことにゆったりとした口調で、選考に当たられた時を目を通された拙論に対するご感想などを話される様子を拝し、ご研究の積み重ねから来る威厳と、おおらかなご性格から発する巧まざる諧謔とに感嘆し、このような方がおられるというのも、まことに、ナラジヨが名門校だからなのだろうと、しみじみ感じたものでした。

そのような、歴史ある伝統校に勤め、わたしのように、才能の乏しく、気力に欠けた人間が、才能ある同僚、熱心な学生の皆様にご配慮いただいたお蔭で、

大過なく定年を迎えられたことを証す「さようなら」を申しあげられるのは、なんとこの幸せでしょうか。

ただ、一つ申しあげますなら、わたしも、何の欲するところもなく今日まで生きてきたわけではありません。真なるもの、善きもの、美しいものを、隠れた場所から見つけ出し、あるいは作り出して、わずかでも世に役立ちたいと思わなかったではありません。

めぐりあわせもあって、さしたる「業績」を何一つあげることなく、社会から消え去る時を迎えたというだけです。それは、不本意なことではありませんが、しかし、わたしは、それを悔みません。

W・ジェームズは、『プラグマティズム』の中で、自身の抱く理想を実現するために、必要とあれば、おのれ自身を賭すこともいとわれない勇氣ある人間、崇高なもののために努め、そのために、贖われない自己の喪失をさへ受容する凜々しい精神を称揚して、ギリシア詩華集から次のような詩を引用しています。

難破船の水夫は、

わが身はこの岸辺に埋められながら、帆かけて進めと汝らに命じている。

われらは失われたが、美しき帆船の数々は、疾風をついて進んでいった。

わたしは、この水夫に共感する故に、自身は成果をあげないままに消える定めにあっても、二十年在籍させていただいたナラジヨに、有為な皆様がおられることを素直に喜んでいるのです。

それが、今、ナラジヨにお別れを告げることのうれしく感じられる第二の理由です。

ナラジヨの学生、院生の皆様が、才能を活かして、真のリーダーとなり、いっそう活躍されることをお祈りしております。また、ご努力が報われない時にも従容としてその運命を受け入れる精神の凜々しさをもち続けくださるよう、お願いしたいと思います（わたしも、そう申しあげてを許される程度の間人ではある、と認めていたけるのではないのでしょうか）。

最後に、もう一度申しませう。
さようなら、ナラジヨ。

奈良女子大学での 二十四年余りを振り返って

塚原 敬一

理学部 教授
化学科 機能化学講座



KEIICHI
TSUKAHARA

時が経つのは早いもので、あと少しで定年退職を迎えようとしています。今年度の四月に、これまでの研究生活を振り返るため、パソコン上に「研究のまとめ」のホルダーを作ったのに、未だにコンテンツが埋まっています。

私は一九七七年四月、東北大学大学院理学研究科博士課程二年で中退して島根大学文学部理学科助手として採用されました。その後、理学部助手、同助教授を経て、一九八八年十月、理学部助教授として本学に着任しました。専門分野は、無機化学のうち金属イオンを中心に有機・無機化合物群を含む錯体化学です。学生時代は、溶液内における金属錯体の電子移動反応（酸化還元反応）を速度論的に研究しました。指導教官であった助教授の先生から、反応機構の研究をやるなら既知化合物を使うのではなく新規化合物を合成してやりなさい、とアドバイスされました。

この基本姿勢は、その後の研究の基礎となっております。島根大学時代は、教授の研究のサポートも含めて、金属錯体に加えて、生体内の酸化還元性有機化合物や金属蛋白質を対象に電子移動反応の研究を開始しました。また、着任してまもなく研究室の助教授の先生が二年間の長期海外出張で米国に行かれたので、その間、学生実験以外に無

機化学分野の講義を幾つか担当しました。この経験は、その後の研究にプラスとなりました。助教授の先生が帰国されてから暫くして、私が二年間米国の大に出張させてもらいました。ここでは金属蛋白質と還元性有機化合物との電子移動反応の研究を行いました。帰国後、私の研究方向は生物無機化学分野における電子移動反応の研究に向かうことになりました。

本学に着任してからは、これまでの研究に「光」と「電子移動経路」を加え、対象物質も金属蛋白質、金属酵素、DNAなどに広がりました。当初の数年間、大学院へ進学する学生がいませんでしたが、頑張ってくれる学部四回生に恵まれ、少しずつでしたが成果が蓄積されました。その後、継続して一〜二名程度博士前期課程へ進学する学生がいましたので、ようやく研究する雰囲気が出てきました。本学の学生は、一括りに言うことはできませんが、真面目にコツコツと努力する人が多く、合成や測定実験に優れています。その御陰で学生とともに研究成果をあげることができました。一九九六年四月、教授に昇任し、独立した研究室を持つことになりましたが、大学の管理・運営面での役割が増加し、研究時間が大幅に減少しました。一方、国立大学法人化

により、教員評価が求められる中で、特に研究業績に対する意識は、ますます強くなりました。幸い、二〇〇一年四月、研究室のスタッフとして高島助手（現准教授）に参加してもらうことができ、今日まで強力にサポートしてもらっています。最近では、安全管理専門部会長、評議員、学部長、学長補佐などの仕事に追われ、教育・研究の時間が少なくなったことが心残りですが、残された時間を悔いのないように過ごしたいと思っています。

奈良女子大学は、いろいろな意味で私を成長させました。本学での二十四年余りの教員生活は充実していた、とはつきり言えます。最後になりましたが、本学の教職員・学生の皆様に心より感謝申し上げますとともに、皆様のご多幸とご発展をお祈りいたします。



女性のタフネスと 思考能力と生物科学

鈴木 孝仁

理学部 教授
生物科学科 分子・細胞生物学講座



TAKAHITO
SUZUKI

前任地の名古屋大学からこの奈良の地に赴任してきたのは昭和六十三年の四月であった。以来、四半世紀の間、奈良女子大学で教鞭をとることになった。

これまで曲がりなりにも生物科学を教授してきたとは言え、高校生であった頃の私は物理と化学に興味の中心を占めていた。生物の授業はあったのだけれども、当時の教科書には書かれていなかったDNAの二重らせんモデルと代謝経路を学んだ以外には何の興味も持てなかった。ところが、クラス担任でもあった物理の先生（キノコの採集家であることは後に知った）が高校三年の授業中の雑談で「最先端研究の物理学者が生物学を始めている」と語られた一言が、私のその後の進路を決めるきっかけだった。生物学の分野に将来性を期待して、薬学部や農学部に進学できる東大の理科Ⅱ類を進学先に選択した。そして入学後の教養学部で生物学の勉強を始めたのである。昭和四十三年七月に学園紛争が始まり、不本意ながら十月月もの休講期間が続いた。この休講期間のおかげで、細胞学や分子生物学の専門書を数多く読むことができ、実験事実から論理的に積み上げる生命観の展開に、体中に電気が走るような快感を覚えた。また高校の物理の先生が言及された生物学を始めた物

理学者とは、英国のジョン・ランドールやフランス・クリック、米国コールド・スプリング・ハーバー研究所のマックス・デルブリュックを中心とする人々であることも知った。

二学年前期が終わると進学振り分けという通過儀礼を通らねばならなかった。その時期までに、私は実学よりは虚学（純粋科学）へと心変わりしていたおかげで理学部進学の道を選んだ。進学説明会で遺伝子やDNAといったキーワードがあったのが生物学科の植物学課程だった。そして関東大震災の後に建築された重厚な建物にある植物学教室での生活が始まった。学園紛争中に、学科の先輩諸氏がカリキュラム変更を教官に働きかけ、講義や実習内容を生化学や遺伝学を中心とするものに大幅変更させていた。そのため生実習内容は、顕微鏡観察を中心とする従来のカリキュラムから、生体成分の分画や機器分析、さらには放射能を使ったトレーサー実験も経験できるものになっていた。植物学教室には七名の学生が進学したが、三名は女性であった。私の高校は国立なのに男子校であったので、当初は彼女らへの接し方に躊躇していた。ところが酵素を精製する実習など、昼から始めて午後十時頃までかかる長丁場での女性三人のタフネスに大いに驚

かされた。また大型計算機を使うフォートランを使ったプログラミング実習では、三人が難なく成功裏に終えてしまうのを見せつけられ、そのアルゴリズム的思考能力には圧倒されてしまった。こうして身近で女性の能力を骨身に沁みさせいか、奈良女子大学に赴任するのに全く抵抗感はなかった。ちなみに現在三人はそれぞれ生物科学領域で研究者として活躍している。

大学院に進学して以来、微生物を相手に四十年間研究に携わってこられた。この間いつも国内外の女性のライバルや共同研究者、そして何よりも学生が私を支えてくれた。奈良女子大学は今後も多くのタフネスでアルゴリズム的思考能力に富んだ卒業生を社会に送るだろう。卒業生それぞれが社会で相応の実力を発揮してくれば、もっと良い社会が構築できることは間違いないと思う。

奈良女子大学で 過ごした四十五年

前川 昌子

生活環境学部 教授
生活健康・衣環境学科
衣環境学講座



MASAKO
MAEKAWA

昭和四十三年に入学してから今日に至るまで四十五年間、「私の所属」と言えは、ほとんどが奈良女子大学であった。

家政学部被服学科に入学して被服に関する意匠学・構成学・材料学・管理学を学んだ。卒業の年は国立大学の授業料値上げに反対するバリケードストライキがあった。正門付近に机が積み上げられた当時の光景が今も目に浮かぶ。

卒業して和歌山にある短期大学の助手に採用された。奈良女子高等師範学校を出られた先生の研究室に置いていただいた。立居振舞のとても美しい、きちんとされた優しい先生であった。

その後も進学や就職を重ねて後、昭和五十六年九月に本学の助手に任用された。被服学科には佐保会員の女性教員が五人おられた。一方、在学当時は主に工芸繊維関連の大学を出られた男性教員がおられたが、在職してからは理工学関係が多くなっていった。その中、とても活動度の高い名物先生がおられた。覚えていただけでも、イギリス、カナダ、台湾からの高分子科学の著名な教授を招聘された。私はイギリスの先生と親しくさせていただくことになり、カナダの先生には博士研究員の身分で一年間研究室に置いていただいた。この出会いに感謝しつつ。

大学院の修士課程で「木綿染色布の洗濯堅牢度」の研究を始めて以来、一貫して染色科学に関する研究を行ってきた。博士課程は大阪府立大学に学び、

恩師からいただいた「高分子電解質水溶液中での染色に関する平衡論的研究」で学位を得た。その後、大阪府立大学での同世代の研究者と「セルロース膜中での染料の並列拡散」に関する共同研究を行った。この染色の速度論的研究は十五年に及んだ。数年は先が見えなかったが、少しずつ研究成果が見えるようになり、研究の醍醐味を味わうことができた。共同研究に加わってくれた学生の優秀さにはしばしば驚いた。

その後、ヘアカラーが大流行したので、学生と議論して「毛髪の脱色に関する研究」をしようということになり、脱色による毛髪の損傷も調べた。近年は、古代から用いられてきた奈良ゆかりの天然染料やタマネギ外皮などの身近な色材を用いた染色の研究をした。天然色材には、薬効などの機能を持つものも多く興味深かった。

最後の三年間は、色彩学の授業を受け持った。初めは苦労したが、混色系だけでなく顔色系の色の表し方や、色見え方の不思議な現象、色彩調和について学び、とても勉強になった。

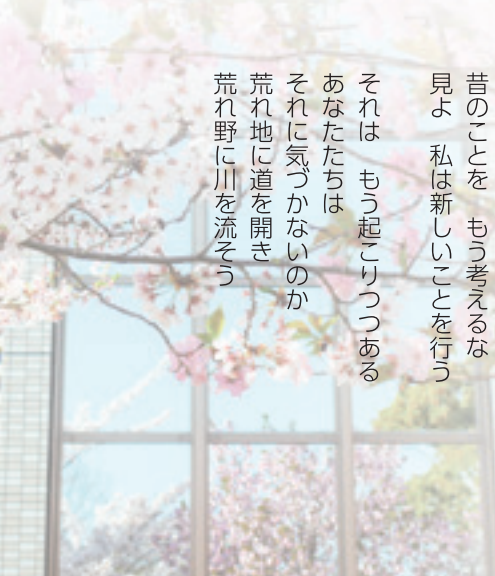
定年を迎える年になり、大学は少しずつ変化したと感じる。その間に世の中はもっと変化していた。老舗アパレルメーカーのボスが外国人となったニュースを耳にするなど、これまでと同じようにしていたのでは未来はおぼつかない時代になった。一方で、老舗めがねメーカーの起死回生の奮闘記も耳にする。伝統ある奈良女子大学が今後ますます発展することを願っている。

最後になったが、類なく美しい景観に恵まれたこの大学において人生の大半を過ごすことができた幸運と、ここでお世話になった多くの方々感謝している。

次のイザヤ書（四三章一八―一九）のメッセージを胸にこれから歩みたい。

過ぎ去ったことを もう思い出さず
昔のことを もう考えるな
見よ 私は新しいことを行う

それは もう起こりつつある
あなたたちは
それに気づかないのか
荒地に道を開き
荒れ野に川を流そう



作品との「一期一会」を大事に

翁 みほり

大学院人間文化研究科 博士前期課程
国際社会文化学専攻 一回生



2012年夏に訪れたバチカン美術館

日本美術史をぜひ奈良女で学びたい！
そう意気込み、入学してから早五年が経とうとしています。そんな私が現在掲げる目標は、「年間百本の展覧会を観に行くこと」です。なぜ百本なのか。それは、私の研究を指導していただいている加須屋誠先生が述べられた、「美術を学ぼうと志す学生は、年百本程度の展覧会に行くことを勧めます」という言葉に感化されたためです。当時学部二回生だった私にとって、この言葉は衝撃でした。それ以前は特に関心のある展覧会を年に数本観に行く程度でした。しかし、先生の一言をきっかけに、それ以後は幅広く、様々なテーマの展覧会を観に行くように。休日や空き時間に博物館や美術館、寺社などを訪れ

るのが私の習慣となっていきました。そうして数多くの展覧会を回るうちに、先生がなぜ展覧会を数多く回ることを勧められたのかが、徐々に理解できるようになりました。美術史を学ぶ上で、一番大切なのは、「自分の目で作品を見ること」だと。実物を目にして初めて気づくことが多々あります。たとえば、作品の材質や、絵具ののり具合、また

傷み具合など。それは印刷物やデジタル画像を見るだけでは、けっして得られない情報です。昔の私は書籍やネット等で作品を見れば十分ではないかと考えていました。しかし、作品を研究するにあたり、実物を見ていなければ作品を根本からきちんと理解することはできないのだと痛感しました。

そして、作品に直接出会うということとは、研究に必要な知識を得るだけではなく、人の内面を豊かにしてくれるものだと考えています。作品一つ一つは私に想像力を与えてくれ、自分を育て、目に見えない財産となっていると感じています。これからも作品と出会える喜びをかみしめて、作品との「一期一会」を大事にしていきたいです。

はじめての研究、はじめての時間 はじめての人たち

橋爪 恵

大学院人間文化研究科 博士前期課程
数学専攻 一回生

大学生生活で楽しみつづけたことはありますか？ 残念ながら私はありませんでした。でも楽しみつづけないくらい面白そうなところを見つけました。サイエンスインカレというものをご存知でしょうか。

スポーツのインカレはよく知られていますよね。サイエンスインカレはサイエンスに関する研究とそのプレゼンを競う大会です。私はこの大会に口頭発表で参加しました。最初はよく知らないけど面白そうな

大会がある、というだけで出場に向けて研究を始めました。すぐ終わると考えていたのに、論文を読むのも研究をするのも初めてで、しかも英語が苦手、基礎知識も不足している私は論文を読むのも、理解するのも進みません。他

MIHORI
OKINA

MEGUMI
HASHIZUME

の研究者の結果をよく理解し、新しい問題を自分で考える。

時に考えた内容に間違いを見つけ振り出しに戻り、やっと問題が解けると他の人の研究結果に含まれていることを知ったり問題は山積みでした。それでもゼミの先生には授業の合間等に（廊下ですれ違った時や食事中に先生を捕まえ前置きもなく話をして）助けていただき、先行研究をした方にこちらの研究をみていただいたりもしました。

自分なりに一所懸命取り組んだし、助けてくれる方々がいる恵まれた環境に

あったおかげで、ほぼ満足できる結果が得られ、無事書類選考を通過することができました。

大会では多くの出場者と話をすることができ、それぞれが自分の研究を楽しみ、自信を持っていました。私も何となく始めた研究なのに必死になって取り組み、最後には自信を持って発表できました。結果は、私は隣に座っていた発表者に負けて賞を逃しました。すごく悔しかったです。負けた出場者は皆悔しかったと思います。それは真剣に研究したからだと思います。この大会を通して出会っ

た人は今までの私とは全く違い、やりたいたいことがあり、それに対して積極的な人たちでした。そして振り返ると私は大会までの数か月、何かに打ち込める時間を過ごせ、前までの自分より少し何事にも積極的な自分に出会えました。

まだほんの少し研究を始めたばかりですが、ずっと楽しめそうなることを見つけれ、楽しんでる人がたくさんいることを知りました。私はこれからも楽しみながら積極的に研究、発表をして楽しみを人と共有していきたいと思えます。

一歩、そのさき

本郷 翔子

生活環境学部
食物栄養学科 四回生

異国でのホームステイ——それは多くの若者の憧れではないでしょうか。例にもれずこの憧れを抱いていた私の夢が叶ったのは、二〇一一年の冬のことでした。社会奉仕団体ライオンズクラブの一環事業である青少年交換プログラムにより、クロアチアへ派遣されることとなったのです。この事業は、

大学生以下の若者を世界中で派遣し合い国際理解と親善を促すもので、日本も世界各国へ派遣生を送る一方、海外からの人気が高く多くの来日生を受け入れています。

しかし、この年は違っていました。三月に発生した大災害、東日本大震災と原発事故は世界に大きな衝撃を与えていました。訪日者が減少したのと同じく、このプログラムでも日本への派遣予定が次々とキャンセルされていたのです。そのような時期に海外へ渡る私達派遣生には従来の国際親善に加え、正しい日本の現状を伝えてくれる」という使命が課せられました。

只でさえ複雑な報道を外国人に説明できるのだろうか。幸い多くのクロア



クロアチアの首都ザグレブ
ウィーンのような面影をもつ

SYOKO
HONGO

チア人が英語を話せませんが、長らく英語から離れていた私には至難の業でした。しかし、行くからにはとことんやろう！ 出発まで時間を見つけては情報の収集、伝え方の試行錯誤を繰り返しました。

案の定向こうでは原発について多く聞かれました。私はしどろもどろになりながらも蓄えた情報を精一杯伝えました。結局、本当に正しく伝わったのかは今でも疑問です。けれども、「早く日本に行ってみたい」という言葉を聞く度に達成感に近いものを味わいました。

そして帰国後の今、ある地域の同プログラムOB会立ち上げに関わらせていただいています。一歩の踏み出しが新たな扉を次々と開いてくれる、この寄稿もまたその一つなのかも知れません。

奈良という地で学び、奈良で働く

YURIKO
OIKE

御池 友里子

文学部 人間関係行動学専攻
平成二十二年卒業
奈良県教育委員会事務局保健体育課

大学を卒業してから三年の月日が過ぎ、私は現在、大学近くの奈良県庁で働いています。県庁の玄関前には時折鹿の群れが芝を食べにやって来ることもあり、そんな何気ない光景を見る度、大学から慣れ親しんだこの奈良という地で働ける幸せを感じます。

学生時代は、体育会系と文化系の部活を掛け持ちしていたこともあり、充実した日々を送っていました。「奈良の大学に入学したのだから思い切り奈良を満喫しよう!」と、授業の合間に奈良公園の散策やならまちのカフェで友人と過ごすことで気分転換をしたり、季節の行事に参加したり、休日には、飛鳥や吉野などへ足を伸ばして歴史を

感じたり、まさに奈良一色でした。また、歴史学、地理学、社会学など様々な角度から奈良についてアプローチしていく「なら学」という授業が今の職に就く上で大きな影響を与えました。この授業を通して、平城京から平安京に都が遷った後も続く歴史・文化を今なお大切に残していることや、現在の奈良県が抱える過疎や宿泊客の少なさといった課題やそれに対する地元の方の思いなどを知り、これまで私が抱いていたイメージから多面的に奈良を捉え直すきっかけとなりました。同時に、大学生生活を通じて知った奥深い奈良の魅力をより多くの人に知ってもらいたいと思うようになり、奈良県職員という

職業を選びました。

社会人になってからは、学生時代のような一観光客ではなく、奈良県を担う一職員として、日々県民の方に対する責任と奈良の県政に携われる喜びを感じながら働いています。また、業務を通じて県職員の先輩方や市町村役場の方など県や地元地域のことを思う多くの人々との出会いによって、その思いをより一層強くしているところです。京都でも大阪でもなく、奈良だからこそ訪れたい(住みたい)——。一人でも多くの方にそう思ってもらえるよう、これからも一職員として、一人の人間として成長していけたらと思います。

やりたい仕事に就く事と 仕事を続けるという事

上村(旧姓/米澤) 麻実

大学院人間文化研究科 博士前期課程
物理科学専攻 平成十八年修了
マツダ株式会社 車両開発本部
フラットマシニング開発グループ



ASAMI
KAMIMURA

故郷の奈良を離れ約九年、私は今広島で自動車の内装質感の開発に携わっています。二〇〇九年に第一子を出産後も仕事を続けています。就職活動時、私はとにかく好きな飛行機や自動車に関係した仕事がしたい、という事しか

考えていませんでした。入社後は第一希望だった商品企画に配属されました。しかし、思い描いていた業務内容とのギャップから、徐々にモチベーションが下がるという事態になりました。いつしか商品開発の現場で仕事をしたい

と思うようになり、五年目に自らの希望で今の部署に異動しました。入社当時は思いもよらなかった開発という仕事は、いざやってみると自分の性に合っているのがわかりました。今になり思うことは、自分のやりたい仕事に

思いを描き、企業や部署選びをするには必要だけれど、実際は仕事をしてみないと本当に自分にとってどうなのかはわからないという事です。たとえ希望通りの企業や部署にいけなかったとしても、まずはそこで頑張ってみるといろんな気付きや成長があります。

また女性にとっては、結婚／出産というイベントがまだまだ仕事を続けるかどうかの転機となっています。特に

出産後は育児／家事と仕事の両立ができるのか、という不安は多かれ少なかれたいの女性の持っている事と思います。しかし、私の中で仕事をやめるといふ選択肢はありませんでした。仕事を続け自分が成長する事で、自分が元気になるからです。そして自分が元気でいる事は子供にも良い影響を与えていると感じています。大切なのは、自分が心身ともに元気でいられる事です。

ずっと仕事を続けていきたいと思っ
ている方には、やりたい事に加えて、
企業の福利厚生の内容、職場の理解の有無、
こういった事も企業選びのポイントに
して頂ければと思います。私は結果的
に仕事を続けやすい環境に恵まれ今本
当に感謝しています。皆さんが良き職
場に巡り合えるよう、心から願ってお
ります。

Just believe yourself.

北須賀 理沙

生活環境学部 生活文化学科
平成二十三年卒業
愛媛県立松山東高校 英語講師



RISA
KITASUKA

“Connect dots”。私は悩んだ時、この言葉を思い出す。アップル創始者スティーブ・ジョブスがスタンフォード大学の卒業式スピーチで述べた言葉である。彼の人生は容易なものではなかったが、彼は自らの選択を後悔していない。この言葉は、過去の選択それぞれを繋ぐ事が未来に繋がるということだ。今までしてきた事に無駄は何もないのだ。私は、このスピーチを聞いた時、深く頷き、自分に自信が持てた。

「アメリカに行きたい！住みたい！」これが私の中学生時代の夢だった。英語習得が目標になり英会話学校に通い洋楽に夢中になった。しかし、高校では受験のために仕方なく英語を勉強していた。大学入学後しばらくは受験からの解放から英語の勉強を忘れていた。

自分の時間が増え、将来を考えると、頭と心から離れずにいたのが英語だった。佐野敏行先生のご指導で他国の民族や文化の学習、フィールドワークをするなどして、より海外と英語に興味を持つようになり、新しい目標ができた。留学である。不安もあったが予備校に通い英語を勉強した。

卒業後、カリフォルニア大学サンデ

イ工学校で英語教授法を学びながら一年弱を過ごした。他言語を毎日耳にし、多種多様な人に出会い、学校・カフェ・ビーチで様々な国の友



UCSD留学中に友人たちと

達と意見をぶつけあった。笑い泣き怒ったことすべてが私の視野を広げた。「私は世界に生きている」と感じた。
現在、私は地元の公立高校に勤務している。教えるということは本当に奥深い。その魅力に一喜一憂しながら過ごす学びの毎日だ。広い世界に出会える楽しさを知ってもらうことが今の私の英語教師としての課題である。

私の人生は、その都度の悩み、選択、決心が点と点で繋がって今となっている。学生の皆さん、今は分からなくても、将来、はつきりと点と点が繋がっているのがわかるでしょう。これからも私は、Connect dotsと、周りの人への感謝の気持ちを胸に日々向上していきたいと思ふ。Just believe yourself.

就職内定状況(中間集計)

平成24年度(2013年春)卒業・修了生にとっては、昨年に引き続き、厳しい就職環境となっています。就職活動中の人にとっては大変厳しい状況ですが、大学の教職員の支援も受け、最後まであきらめずに希望の就職先を見つけてほしいものです。

また平成25年度(2014年春)卒業・修了予定者については、これから本格的に就職活動を行うにあたって、どのような状況であっても対応できるよう、入念に準備をして下さい。

以下は、平成24年度卒業・修了予定者の平成25年1月28日現在の就職内定状況の中間集計です。

平成24年度卒業・修了予定者の内定先企業等一覧

[学 部]

()内は、複数内定者の人数を示す。

産 業 別 内 訳		就 職 先 企 業 等 名 称		
		文 学 部	理 学 部	生 活 環 境 学 部
製 造 業	建 設 業		アキュラホーム	アキュラホーム、一条工務店、ウッドワン パナホーム、フォレストコーポレーション、平成建設
	食 料 品 ・ 飲 料 た ば こ ・ 飼 料	サッポロビール マルサンアイ	日新化工 山崎製パン	アスザックフーズ、石井食品、一正蒲鉾、白鶴酒造 丸信製粉、ユタカフーズ、理研ビタミン ロック・フィールド
	織 維 工 業			タカラ、玉屋、ナルミヤインターナショナル 北陸エステアール協同組合、丸山繊維産業、ラピース、ワコール
	印 刷 ・ 同 関 連 業	角川グループパブリッシング		
	化 学 工 業 、 石 油 ・ 石 炭 製 品	NSファーフ・ジャパン	大塚製薬、大塚製薬工場、三和化学研究所 シミズ薬品、堀川化成、Meiji Seika ファルマ	アルピオン バイエル薬品
	鉄 鋼 業、非鉄金属・金属製品	小島プレス工業		YKK
	汎用・生産用・業務用機械器具	ダイキン工業	富士通コンポーネント、三菱電機(2)	シスメックス、ブラザー工業
	電子部品・デバイス・電子回路	ナナオ	ルネサスエレクトロニクス	
	電気・情報通信機械器具		NECエンジニアリング	
	輸 送 用 機 械 器 具	シンフォニアテクノロジー	アイシン精機、日産自動車(2)	
そ の 他	SHO-BI、セネファ タカラスタンダード		アシックス、クリナップ、TOTOバスクリエイト 補助工業、ミズノ、メイワボックス	
電 気 ・ ガ ス ・ 熱 供 給 ・ 水 道 業			かんでんエンジニアリング	
情 報 通 信 業 (通信・マスコミ・情報処理)	I2C、インテック、NSD エンカレッジ・テクノロジー サンライズ チャート研究所 TIS(2) 西日本電信電話 日本コントロールシステム ファースト みずほ情報総研	イニタウトジャパン、医療システムズ 内田洋行ITソリューションズ西日本 エヌ・ティ・ティ・システム開発、OKIソフトウェア ケーケーシー情報システム(2)、シティ・コム(2) スミセイ情報システム、セイノー情報サービス ソフトバンクグループ、中電シーティーアイ、電算 西日本電信電話(3)、東日本電信電話、日立システムズ 日立ソリューションズ、ベニックスソリューション 三菱電機マイコン機器ソフトウェア ユニバーサルコンピューター	I2C WAVE カコムス TIS トヨタコミュニケーションシステム	
運 輸 業 ・ 郵 便 業	国際自動車、西日本旅客鉄道		日本航空、東日本旅客鉄道東京工務事務所	
卸 売 ・ 小 売 業	卸 売 業	泉屋、ACN JFE商事、杉本商事、モトックス		イトキン、小林産業、サンゲツ ジョンソン・エンド・ジョンソン、田窪(2)、古貞
	小 売 業	イオンリテール(2)、エーデルワイス、塩田屋 鈴乃屋、ニトリホールディングス、Parade 阪食、MonotaRO(2)、リカーマウンテン	コニカミノルタビジネステクノロジーズ コメ兵、セガミメディクス マツモト、ユニー	アッシュ・セー・クレアシオン、イオンリテール(3) ウェルネス湖北、クリケット、セキミキ・グループ 大丸松坂屋、パルス、ユニクロ
金 融 ・ 保 険 業	金 融 業	伊予銀行、オリックス、紀陽銀行、京都銀行 近畿大阪銀行、滋賀銀行、大和証券(2)、百十四銀行	伊予銀行、柏崎信用金庫、三菱東京UFJ銀行 三菱UFJモルガン・スタンレー証券、大和信用金庫	イオンクレジットサービス、近畿大阪銀行、山陰合同銀行 諏訪信用金庫、北陸銀行、山口銀行、ゆうちょ銀行(2)
	保 険 業	あいおいニッセイ同和損害保険、ソニー損害保険 東京海上日動火災保険(2)、日本生命保険相互会社 三井住友海上火災保険	日本生命保険相互会社	アドバンスクリエイト 日本生命保険相互会社

【学部】

()内は、複数内定者の人数を示す。

産業別内訳			就職先企業等名称		
			文 学 部	理 学 部	生 活 環 境 学 部
物産 産業	不動産取引・賃貸・管理業		タイコーエージェンシー		山見住宅
	物品賃貸業		ヤマシタコーポレーション		
学術研究、専門技術サービス業			ケーホウ、日本経営、ユニバーサル特許事務所		公益財団法人アイメイト協会、公益財団法人日本食品油脂検査協会
複合サービス業					大阪中河内農業協同組合、香川県農業協同組合
宿泊業、飲食サービス業			ワールド・ヘリテイジ		ヴィ・ド・フランス、日本マクドナルド
生活関連サービス業、娯楽業			JTB関西、プライズワード	テイクアンドギヴ・ニーズ	スカイ、高見、長島観光開発、吉本興業
教育・学習支援業	学校教育 教員		愛知県教育委員会(高校・国語)、鹿児島県教育委員会(高校・英語) 岐阜県教育委員会(高校・国語)、京都府教育委員会(高校・地理歴史) 埼玉県教育委員会(高校・英語)、大阪府教育委員会(中学校・英語) 奈良県教育委員会(中学校・国語)、三重県教育委員会(中学校・国語) 愛知県教育委員会(小学校)、奈良県教育委員会(小学校) デュッセルドルフ日本人幼稚園	広島県教育委員会(高校・化学)、大阪市教育委員会(中学校・理科) 奈良県教育委員会(中学校・数学)、兵庫県教育委員会(中学校・数学) 和歌山信愛女子短期大学附属中学校・高等学校(高校・中学校・理科)	埼玉県教育委員会(中学校・家庭科) 兵庫県教育委員会(小学校)(2)
		その他の教育・学習支援業	ECC、ABC cooking studio、河合塾、京都アートスクール 成基、聖文館若松塾、トライグループ、三方原学習室		アプリーティセサモ、ABC cooking studio さなる
医療・福祉業	医療業、保健衛生				医療法人社団喜生会新富士病院、京都桂病院 近畿健康管理センター、神戸市民病院機構 NPO法人こころ塾、日本赤十字社、松江赤十字病院
	社会保険、社会福祉、介護事業				全国健康保険協会
サービス業	その他サービス業		宗教法人業師寺、アスパーク、談		スルガスタッフサービス
公務	国家公務		国土交通省、国土交通省航空局、横浜税関	名古屋国税局	大阪地方裁判所
	地方公務		石川県、大分県、大阪府、奈良県(2)	京都府	香川県、奈良県
			越前市、大阪市、神戸市、堺市、桜川市、和歌山市 京都府警察	生駒市	生駒市、上市町、瀬戸市、寝屋川市 愛媛県警察

平成24年度卒業・修了予定者の内定先企業等一覧

【大学院(博士前期課程)】

()内は、複数内定者の人数を示す。

産業別内訳			就職先企業等名称		
			国際社会文化学 言語文化学 人間行動科学	数学 物理科学 化学 生物科学 情報科学	食物栄養学 生活健康・衣環境学 住環境学 生活文化学
建設業					トヨタホーム、モデーロ
製 造 業	食料品・飲料・たばこ・飼料			J A 西日本くみあい飼料、白鶴酒造	サントリーホールディングス、田中食品興業所
	印刷・同関連業			凸版印刷	
	化学工業、石油・石炭製品			イーピーエス、奥野製薬工業、花王、新日本科学 住化エンピロサイエンス、田村薬品工業、日東メディック ノーリツ、Meiji Seika ファルマ、ユニチカ	パレクセル・インターナショナル 三菱化学
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品			住友電気工業(2)	
	汎用・生産用業務用機械器具			Hitz日立造船(3)、松井製作所、三菱電機(4)	
	電子部品・デバイス・電子回路			富士通	
	電気・情報通信機械器具			東芝(2)	遠藤照明
	輸送用機械器具	三五		日産自動車(3)	
情報通信業			アイシン・コムグループ、アドソル日進、オービスシステム トランスコスモス、ベニックソリューション 北陸日本電気ソフトウェア、三菱スペース・ソフトウェア 三菱電機コントロールソフトウェア		
小売業	小売業	思文閣			クロスカンパニー
金融業	金融業	岐阜信用金庫		廣田証券	
学術研究、専門技術サービス業			アクセンチュア、エコニクス		鳳コンサルタント、京都産業技術研究所
生活関連サービス業、娯楽業			平安閣互助会センター		船場
教育・学習支援業	学校教育 教員		兵庫県教育委員会(高校・国語) 奈良県教育委員会(小学校)	奈良県教育委員会(高校・数学)、初芝富田林高等学校(高校・数学) 兵庫県教育委員会(中学校・数学)、堺市教育委員会(小中連携・数学)	天理医療大学 富山県教育委員会(高校・家庭科)、大阪府教育委員会(栄養教諭)
		その他の教育・学習支援業	さなる九州		
医療・福祉業	医療業、保健衛生		京都府山城北保健所		
サービス業	その他のサービス業	WDB			
公務	地方公務	愛知県、萩市、天理市教育委員会	三重県、橿原市、八尾市		島根県、堺市、岩手県警察

体育系

■なぎなた部

①10人②火木16時半～19時、土9時半～12時
③月300円④私たちがなぎなた部は皆で仲良く活動しています。部員のほとんどが初心者ですが、卒業までに二段を取得できます！経験者も大歓迎！礼儀作法も身につきます。興味のある人、ぜひ体育館へ♪

■バスケットボール部

①12人②毎週月・木16時半～、土9時～③毎年5,000円＋登録料3,000円④バスケットが大好きという方大歓迎です。時に楽しく時に厳しく私達と一緒にバスケットをしませんか。マネージャーも大歓迎です。ぜひ一度見に来てください。

■バドミントン部

①13人②月・水は16時半～、土は13時～③月1,000円④私達は3部昇格を目指して練習に励んでいます。経験者・初心者を交えてバドミントンをする楽しさはもちろん、練習を乗り越えた達成感も味わえます。イベントごとのレクも魅力の一つです！

■バレーボール部

①19人②火・金17時～、土曜13時～(第一体育館)③月1,000円④春と秋にあるリーグ戦での昇格を目標に練習に励んでいます。経験者、初心者、マネージャー大歓迎！バレーボールに興味のある方は、是非見学・体験に来てください☆

■ハンドボール部

①8人②毎週火、金曜日16時40分から③月500円④ほとんどの部員が大学からハンドを始めました。日々の練習や合宿を通して、共に成長しましょう。充実した学校生活を送れることまちがいない！プレーヤー、マネージャーともに大募集♡見学大歓迎です！

■舞踊部

①23人②毎週月・水・木16時半～③月300円④クラシックバレエを基礎に、ヒップホップや話題のダンスのコピーなど様々なジャンルのダンスを踊っています。初心者大歓迎！衣装・照明スタッフも募集中☆舞踊部で充実した大学生活を一緒に送りたい♪

■硬式テニス部

①11人②毎週火水土曜と隔週日曜③月1,000円④テニス好きな人が集まった楽しいクラブです！経験者はもちろん初心者の子も先生やコーチが指導してくださるので上達間違いなし！色々なイベントもあります！学生生活を充実させたいアナタ、ぜひテニスコートへ☆

■サッカー部

①18人②水曜16時半～土曜13時半～③月500円④ほとんどの部員が大学からサッカーを始めました。頑張り次第でぐんぐん上達できます！プレーヤー、マネージャー共に大募集！見学、体験も大歓迎です。ぜひグラウンドへお越しください！

■水泳部

①4人②シーズン中(4～8月)は、平日2回以上③0円④初心者も大会上位入賞者もマネージャーもみんな仲良く楽しく泳いでいます♪奈良教育大学との合同練習のため、友達2倍、先輩2倍！！ちょっとでも興味を持った方、いつでも入部大歓迎です♡

■スキー部「クリスチャニア」

①2人②シーズンオフは週2回、シーズン中は白馬五竜で合宿と居候、よませスキー場で大会。③初年度無料、2回生からは年1万円④偶に辛い事があって、苦しい事があっても、それを覆す白銀の世界での楽しい時間！皆初心者！一緒にやみつきになろう♪

■ソフトテニス部

①5人②月・木16:30～、土13:00～学内テニスコート③月500円④部員全員が春・秋にあるリーグ戦での昇格と、夏の近畿圏体に向けて日々練習に取り組んでいます。アットホームなメンバーと共にテニスで青春しませんか？見学も大歓迎です！！

■卓球部

①13人②水・金16時半～、土9時～③前・後期各500円④「頑張ることって面白い!!」と素直に思えるステキな部活です！！練習も遊びもいっさい手を抜きません☆笑いが絶えない楽しい仲間と最高の大学生活を送りましょう！！興味のある方は、ぜひ見学へ！！

■合気道部

①22人②火木17時半～第二体育館、金18時～鴻ノ池道場③月1,600円(オフの月は無し)④合気道は、体一つでできる武道です。運動未経験者大歓迎！合気道で強く美しく凛々しい女性になりましょう！素敵な師範、コーチと共に貴女を待っています。

■アイススケート部

①3人②週1回③特になし④大学生になってから始める人がほとんどですが、1年もすればジャンプやスピンをこなし氷上をスイスイと滑って演技ができるようになります！！たくさんの大学スケート部が同じリンクで練習しているので友達もたくさんできますよ☆

■気球部

①25人②月1月例会ミーティング、週1お昼休みミーティング③毎月3,000円、年会費10,000円④私達は土日祝日を中心に日本全国の大会に参加し、各地でグルメ、温泉などなど楽しく活動しています♪空や気球に興味のある方、ぜひ一緒に気球を楽しみましょう！！

■弓道部

①7人②毎週火・木曜16時半～、土曜9時半～③毎月1,000円④弓道は見た目以上に奥が深いスポーツです。カッコよく袴を着てみたい方、弓道に興味がある方はぜひ弓道部へ！初心者経験者どちらも大歓迎です！あなたのお越しを心よりお待ちしております！

■剣道部

①11人②月・木・土③月1,000円④爽やかな達成感を味わいたいならココ！初心者・経験者大歓迎☆稽古の中で技術の向上はもちろん、社会で必要な作法も学べます。様々な個性&剣道経歴を持つ部員と楽しい大学生活を送りたい☆お待ちしております！！

■点訳部「ボン・ド・テール」

①13人②週1③0円④主な活動は点字を打つ練習ですが、学外の福祉イベントにボランティアに行ったり复合宿で静岡に出掛けたりと様々なことをしています。兼部もOK、点訳を通じて自分の世界を広げられませんか？常時、入部を受け付けています！

■美術部

①9人②水曜昼休みにミーティング③年1,000円程度④個人制作を中心に、合宿を行ったり、共同制作などをして楽しく活動しています。ゆったりとした部活で美術についてあまり詳しくない人でも大歓迎です。興味のある人は気軽にどうぞ！

■文芸部

①33人②月2回集合・毎月部誌発行③なし④読むこと、書くことが好きな方大歓迎です。あなたの言葉を、本の形で残しませんか？活動は基本的に自由参加で兼部・途中入部も大丈夫。経験不問、わきあいあいとした部活です。お気軽にお越しください！

■漫画研究会

①65人②火・金16:30～③入会金1,000円、前後期各1,000円④主な活動は年4回の部誌発行、学園祭でのイベント開催です。普段は学館「大和」で日本の誇る様々なサブカルチャーについて皆で楽しく語り合っています。興味のある人はどうぞ。

■みどり組

①8人②毎週水曜日昼休みのミーティング、月1程度季節毎に活動③活動時必要に応じて徴収。少なめです。④身のまわりの自然とふれあい楽しめる企画を考え活動しています。果物狩りや農業体験、季節パーティ等々、やってみたい！と思うことを実行していきます。

■わかたけ会

①28人②火曜日昼休みミーティング、月一回プレイ③交通費のみ④障がいをもつ子ども達と交流しています。子ども達とかかわることはもちろん、皆で活動の準備をすることも楽しいです！ボランティアに興味のある方は、ぜひ一度見学にお越しください！

■教育問題研究会

①4人②週1回の例会、長期休暇（春・夏休み）中の合宿③半年500円④堅苦しいイメージを持たれがちですが、そんなことはありません！教育に関することなら、何でもOKです。昨年は教育労働とは何かについて検討しました。気軽に来てね！

■競技かるた部

①22人②月火木③年間1,000円④かるた部すいっち～「か」んたん「る」ーで「た」のしくー！こういうこと思いついちゃう楽しい部活です。でもやるときはやります。めっちゃくちゃ熱いです。一度やったらやめられないかるたの魅力、知りたくないですか？

■KGK ーキリスト者学生会ー

①5人②週1回の聖研、クリスマス会等③無料④今も昔も世界中の人に読まれ続けている聖書を一緒に読んでみませんか？聖書に興味のある方、クリスチャンの方、どなたでも大歓迎！！お待ちしております！

■古美術研究会

①30人②週1回昼休みミーティング、月1回遠足、年1回合宿・部誌「飛天」発行③入部時1,500円④奈良・京都を中心に寺社仏閣・祭の見学に行きます。遠足・合宿の場所や日程は相談で決めます。せっかく奈良に来たのなら、こびけんで古都を満喫しよう！

■茶道部

①14人②火曜昼休みミーティング、木曜お稽古、10月に秋茶会、春夏に合宿③月2,500円程度④2人の先生方に教えていただき、丁寧な指導が受けられるので、初心者でも大丈夫です。日本文化に触れてみたい方、一緒に茶道をしましょう！お待ちしております！

■写真部

①14人②月に1回集合、夏季撮影合宿、学祭展示など③なし④写真に興味がある方どなたでも大歓迎です。カメラは何でもOKです。入部すれば暗室も使えます！兼部もできます。初心者大歓迎！楽しくゆったりわいわい写真を撮りましょう！！

■書道部

①22人②毎週月曜学館3階和室③前・後期各5,000円④学祭での書展を中心に、夏合宿、学外イベントもあります。素敵な先生のもとで皆楽しく活動しています。書道ゆかりの地、奈良で週に一度、書道に触れてみませんか？兼部・初心者の方も大歓迎です！

■天文部

①34人②火曜昼休み学館3階和室でミーティング③年1,000円④毎週のミーティングのほか、不定期で観測会、夏休みに合宿、学祭でプラネタリウムを行います。他大学との交流もあります。星が好きな方、興味のある方、ぜひ覗いてみてください。

■モダンダンス部

①9人②毎週月金（大会前は土曜も）③毎月1,000円④本当にフレンドリーな部活です。プロの先生のレッスンを受けられちゃう充実した活動ができますよ☆部員のほとんどが初心者なので初めての人でも大丈夫！私たちと一緒にダンスを楽しもう！！

■ラクロス部

①21人②月・火・木16:30～、土8:00～③毎月1,000円④ラクロスは大学から始めるスポーツだから、スタートラインはみんな同じ！たてわり班でたこパや鍋パをし、1～4回生までみんな仲良し♪ぜひグラウンドまで見に来てください☆

■陸上競技部

①11人②部員の都合に合わせて③なし④ジョギングを楽しみたい人から選手として活動している人まで様々な人がいます。学年・学部問わずみんな仲良く、すぐに打ち解けられます。初心者でも経験者でも少しでも興味があったら見学、茶話会に来てください。大歓迎☆

文化系

■E.S.S.

①32人②個人の出場したい大会に合わせて、空きコマ・放課後などに活動③入部時3,500円、年間1,500円④ディベート、ディスカッション、スピーチなどの活動を通して英語力の向上を目指しています。他大との交流を通じて世界中に友達を作りましょう！Join us☆

■演劇部 劇団いちご大福

①13人②毎週水・金③公演ごとの徴収④その地では絶えず争いが起こっていた…。体を張ったボケ！飛び交う無茶ぶり！突如現れた例えツッコミの使い手！部員を救うのは、貴女だ。※フィクションです。新入部員、求む。

■華道部「花こみち」

①16人②毎週月曜日17時～中集会室にて③お稽古代1回1,600円④池坊の先生をお迎えしてみんなで楽しく生け花をしています。初心者の方も2、3回生の方も大歓迎！兼部もできるので、興味のある方はいつでも見学や体験にいらしてください！

昨年10月8日、8月に急逝された相馬秀廣教授の「お別れの会」がS棟235教室で開催され、330名の参加でしめやかに故人の冥福を祈りました。その後の立食形式での「偲ぶ会」も230名もの参加があり、大学時代のエピソードなど故人の在りし日を偲びました。

昨2012年8月11日、研究院人文科学系所属の相馬秀廣教授が胆嚢ガンのため御逝去されました。相馬先生は、1987年4月、奈良女子大学文学部地理学科に自然地理学分野の助教授として赴任され、以来、本学のため多方面に尽力されました。なかでも留学生の受け入れや海外との研究交流活動に熱心に取り組み、病に倒れる直前まで、大学院生の学位取得指導やモンゴル・中国との学術共同研究などに邁進されていらっしゃいました。及ばずながら、先生の残された教育・研究の足跡を少しでも有効に継承・発展させることが、残された関係者の使命であることを肝に銘じ、謹んで御冥福をお祈り申し上げたいと思います。

(人文科学系・高田将志)



■ギターマンドリン部

①43人②月・水16:30~③月1,000円④年2回の演奏会に向けて日々楽しく練習してしています♪学年を問わず仲が良く、ほぼ全員が初心者からのスタートなので気軽に始めることができます☆少しでも興味を持たれた方、ぜひ一度ギターマンドリンへ遊びに来て下さいね!

■軽音楽部

①76人②火曜昼休みミーティング③前後期各3,000円④学内ライブやライブハウスでの学外ライブなど活動充実!他大学との交流もあり、友達の輪を広げられます。初心者でも大丈夫!大学生活を楽しみたいならぜひ軽音楽部へ!一度遊びに来て下さいね!

■Jazzy Club

①23人②火・木・土曜日にサークル棟で練習(強制ではありません)③入部費1,000円と年間4,000円④ジャズのスタンダードやスカなどいろいろな曲をやっています。初心者大歓迎!みんなで仲良くジャズを楽しみましょう!

■吹奏楽部

①16人②火18時から③月500円④小人数ですが楽しく活動中♪吹奏楽が好きであれば誰でも大歓迎!またゆるさが特徴なので「楽器は吹きたいけど厳しいのはちょっと…」という方はぜひ奈良女プラスへ!クラリネットを特に募集しています!!

■箏曲部「飛鳥会」

①16人②木or金お稽古、年2回演奏会③月に部費1,000円+お稽古代1,500円④古都奈良らしい日本の伝統楽器であるお箏を楽しみながら練習しています。二回生からは三絃のお稽古も可能です。初心者大歓迎!飛鳥会で、更に大学生活を楽しみましょう!

■能楽部「観世会」

①16人②火・木③月2,000円④私たちはプロの能楽師の先生にご指導いただきながら、伝統芸能である能楽の舞や謡を日々練習しています。部員は全員初心者から始めました。奈良だからこそできることをこの春始めてみませんか?見学お待ちしております!!

■piano-forte

①50人②週1回ミーティング・恋都祭出店(ピアノカフェ)・12月定期演奏会③前・後期各3,000円④冷暖房完備の個室で自由にピアノの練習ができます。学部・回生を越えて仲良く活動中。ソロだけでなく、2台ピアノ等も楽しめる仲間と出会えます。

■社会科学研究会 葦の会

①5人②週1回の部会、夏合宿③半期1,000円④私たちは社会問題についてみんなで調べ、研究しているサークルです。テーマは年ごとに決めるので、「詳しくない…」とか気にしなくても大丈夫!去年は大阪の教育改革を調べてきました。少人数で楽しくやっています。

■学園祭実行委員会

①20人②月曜日昼休みのミーティング、夏合宿、月1回の企画会議③なし④奈良女の学園祭「恋都祭」成功のため、学祭の企画・運営や会場づくり等に全力投球する、通称ことじつ。奈良女生の熱意を動かし学祭を思い切り楽しめましょう!必要物品はやる気・元気・笑顔!!



音楽系

■音楽部

①24人②月・水・金の17:00~19:30③月1,500円④女声合唱の部活です。コンクールや定期演奏会の他、他大学の合唱団との合同演奏会等も行っています。プロの先生の指導も受けられるので初心者もバッチリ歌えるようになります。女声合唱、やってみませんか?

■管弦楽団

①59人②月水金17時~21時③月2,000円④年2回の演奏会を中心に活動しています。経験者、初心者関係なく皆で仲良く音楽をつくっています!プロの先生による指導もありますよ!私たちと一緒に演奏しませんか?いつでも見学大歓迎です!!

第19回外国人留学生による日本語スピーチ大会 及び学長主催留学生懇親会

平成24年11月8日(木)午後4時30分から、大会会館2階大集会室にて「外国人留学生による日本語スピーチ大会」が開催され、中国・台湾・英国・ルクセンブルク・スリランカの5カ国から10名の留学生が出場しました。一人一人の個性豊かなスピーチは、日頃の日本語学習の成果が見られ、聴衆を感動させていました。今年は、中国からの留学生 黄家玉さんが優秀賞に選ばれ、12月13日(木)に行われた奈良地域留学生交流推進会議主催のスピーチ大会へ、本学代表として出場し、同大会においても見事に優秀賞を受賞しました。

スピーチ大会終了後、恒例の学長主催留学生懇親会を協賛食堂で行い、日頃お世話になっている支援団体の関係者とともに、にぎやかに懇談を行いました。多くの日本学生や教職員が参加し、留学生が歌・ダンスを披露してくれるなどたいへん盛会となりました。



日本語スピーチ大会出場者名と演題

- ウォラック ステフィ (ルクセンブルク) 『日本人と外国人の間の誤解』
 刘 晓妮 (中国) 『心がやさしい人になろう』
 張 琪瓊 (中国) 『やさしい日本人!』
 サムソン・フェザレ パディナ (英国) 『現代の東洋音楽と西洋音楽の比較』
 黄 家玉 (中国) 『私の考える日中関係の未来』
 マルシャー ムトゥマリ (スリランカ) 『相手を勇気づける素晴らしい日本人』
 王 若晶 (中国) 『日本に来てよかった』
 葉 千瑜 (台湾) 『私が見た、感じた日本』
 張 月 (中国) 『いらっしやいませ』
 禹 麟娜 (中国) 『新しい自分との出会い』

平成24年度佐保会奨学金授与式

去る12月5日(水)、平成24年度佐保会奨学金授与式が佐保会館の2階大ホールにて挙行政され、今年度は19名に対して奨学金が授与されました。

佐保会奨学金は、本学卒業生で組織された一般社団法人佐保会が、昭和34年に本学創立50周年記念事業の一環として募金された基金により、学業・人物ともに優秀であり、研究意欲が旺盛な者として大学が推薦し、佐保会が採用した者に給付されるものです。

また、本学卒業生 溝上泰子氏のご遺志により「東南アジア留学生の勉学を助成する目的」により佐保会に寄付された奨学金により、今年度は東南アジア留学生奨学生枠として2名を推薦し、授与されました。

＜今回奨学金が授与された17名＞

学 部	文学部	理学部	生活環境学部
	松岡 由佳	小池 衣美香	奥村 かりん
	安部 茉莉亜	田中 恵梨香	田中 葵
	森田 真由美	木津 朝子	川上 桂奈
大学院	博士前期課程	博士後期課程	
	塚本 志帆	榎崎 久美子	
	山城 才子	中前 佳那子	
	菊田 香苗		
	永井 悠		
	岸田 直子		
	山科 友香理		



＜東南アジア留学生奨学生枠として授与された2名＞

大学院	博士前期課程	Duong Thu Ha (ズオン トゥ ハー)
	博士後期課程	Manh Thi Thanh Nga (マイン ティ タン ガ)

廣岡奨学金について

廣岡奨学金は、本学卒業生 故 廣岡タマエ様(奈良女子高等師範学校理科を昭和4年に卒業)のご遺志による寄付金を基金とし、学業・人物ともに優秀な学部学生で、両親のいない者又は母子家庭・父子家庭など、学資負担者に特別の事情があり、経済的に修学が困難な者に奨学金を給付し、将来有望な人材を育成することを目的として設けられたもので、現在9名の学生が受給しています。

この奨学金の募集は、学部2回生以上を対象として、4月に行います。具体的な申し込み手続は掲示によりお知らせします。

日本学生支援機構奨学金について

日本学生支援機構の奨学金には、

無利子の第一種奨学金と有利子の第二種奨学金があります。

4月に新年度の奨学生(定期採用)募集を行っています。また、家計急変による緊急及び応急採用の制度もあります。

これらの奨学生募集や奨学生として在学中に必要な手續については、掲示(図書館東側掲示板)によりお知らせします。自分にとって不利益にならないよう、こまめに掲示を確認し、募集期間や提出期限等を見逃すことのないように十分注意してください。

【貸与月額】

学 部	自宅通学	自宅外通学
第一種奨学金	45,000円	51,000円
第二種奨学金	30,000円・50,000円・80,000円・100,000円・120,000円から自宅・自宅外にかかわらず選択できます。	

大学院	博士前期課程	博士後期課程
第一種奨学金	50,000円又は88,000円から選択できます。	80,000円又は122,000円から選択できます。
第二種奨学金	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円から選択できます。	

※大学院において、日本学生支援機構第一種奨学金の貸与を受けた学生を対象として、在学中に特に優れた業績をあげた者として認定された場合に貸与期間終了時に奨学金の全部または一部の返還が免除される制度があります。

学生相談室から

●学生相談室を、一度訪ねてみませんか。

学業や進路の不安、日常生活で困ったこと、対人関係など、さまざまな心配事について一緒に考えましょう。話を聞いてもらうだけでも、落ち着くこともあります。相談室はあなたの話にじっくり耳を傾けます。そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。内容に応じて適切な人や機関を紹介することもできます。

●開室日及び開室時間

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時
 夏季休業期間中は月曜と木曜のみ開室
 8月第3週と第4週、年末年始、入学試験日(前期・後期)は閉室します。
 上記以外で閉室する場合は、構内掲示板や相談室前にその旨を掲示することにより、お知らせします。
 学生相談室の場所は大会会館3階です。
 TEL.0742-20-3925 Eメール soudan@cc.nara-wu.ac.jp
 HP <http://www.nara-wu.ac.jp/soudan/>

●スタッフ

■相談受付

金 文子 (月曜日・水曜日・金曜日)
 岩井 涼子 (火曜日・木曜日)

■相談員

各学部の教員が担当
 (詳しくはホームページ
 をご覧ください)

■カウンセラー

皆藤 靖子 (臨床心理士)
 竹村 百代 (臨床心理士)